



時間をかけ、文章をきちんと読み取らせなくて、学力は大丈夫なの？

「きちんと読み取る」とはどういうことでしょうか？「きちんと読み取る」ことは、「詳細な読み取り」を行うことではありません。



文章を「きちんと読み取る」ことができるとは、学習指導要領にある「**読むこと**」の**指導事項**が児童生徒に、身に付いていること。

学習指導要領 「読むこと」

小学校 第5学年及び第6学年	中学校 第1学年
ア 自分の思いや考えが伝わるように音読や朗読をすること。	ア 文脈の中における語句の意味を的確にとらえ、理解すること。
イ 目的に応じて、本や文章を比べて読むなど効果的な読み方を工夫すること。	イ 文章の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見などを読み分け、目的や必要に応じて要約したり要旨をとらえたりすること。
ウ 目的に応じて、文章の内容を的確に押さえて要旨をとらえたり、事実と感想、意見などとの関係をおさえ、自分の考えを明確にしながら読んだりすること。	ウ 場面の展開や登場人物などの描写に注意して読み、内容の理解に役立てること。
エ 登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえ、優れた叙述について自分の考えをまとめること。	エ 文章の構成や展開、表現の特徴について自分の考えを持つこと。
オ 本や文章を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりすること。	オ 文章に表れているものの見方や考え方をとらえ、自分のものの見方や考え方を広くすること。
カ 目的に応じて、複数の本や文章などを選んで比べて読むこと。	カ 本や文章などから必要な情報を集めるための方法を身に付け、目的に応じて必要な情報を読み取ること。

※ 小学校と中学校のつながりも大切

山村暮鳥の詩「りんご」

H22年度までの小学校第6学年の教科書に掲載（光村図書）
現在は、中学校第1学年の教科書に掲載（光村図書）



この詩は、生徒の様々な「読み」（解釈）が生まれます。一方、教師も教材研究により、自分の「読み」（解釈）をもって授業を行います。教師の読みに近い生徒が、「きちんと読み取った」といえるのでしょうか？



教師の教材分析や解釈は大切です。しかし、それに近づけようと教師が詩の解釈について説明をすればするほど、**生徒の学習意欲は低下し、読み取りは不十分**になります。

生徒に身に付けさせたい力

- エ 文章の構成や展開、表現の特徴について自分の考えを持つこと。
単元を貫く言語活動として、音読、イメージマップ、好きな詩の紹介パンフレット等、生徒の実態に応じて設定する。



「文章の構成や展開、表現の特徴について自分の考え」を、音読やイメージマップ、パンフレット等に表現できた。 → **きちんと読み取ることができた。**

宮沢賢治の作品

小学校 第6学年 「やまなし」 資料「イーハトーヴの夢」 → 読書
高等学校 （高校総合 国語表現 現代文B）
「永訣の朝」「なめとこ山の熊」「銀河鉄道の夜」「よだかの星」など



宮沢賢治の作品は、小学校から高校までの教科書に掲載されています。「きちんと読み取る」ためには、教材文を指導するのではなく、**学習指導要領の指導事項に基づく系統性を踏まえた読み方**を指導することが重要なのです。

「きちんと読み取る」ことができたかどうかは、教師も児童生徒も分かりにくいものです。そのため、**身に付けさせたい力**をもとに、**単元を貫く言語活動（具体的なゴール）**を位置付けることが大切です。

